

平成27年度「熊本県学力調査」結果（概要）

熊本県教育委員会

県教育委員会では、児童生徒の学力や学習の状況を適切に把握し、教師の指導方法の工夫改善を図るため、「県学力調査(ゆうチャレンジ)」を実施し、その結果を県教育委員会ホームページで報告するとともに、各小中学校へ「分析支援データ」と「課題克服プリント」を提供しました。本リーフレットでは、県全体の分析結果をはじめ、学力向上に成果が見られる学校の取組例、各学校にお願いしたい学力向上の取組などを紹介しています。

各学校におかれては、これらを活用して、自校の意識調査と学力調査の結果を県の調査結果と比較・分析するなどして、自校の成果と課題を明らかにし、その改善に向けて授業改善はもとより、補充指導等の充実、教育課程編成の工夫を図るなど、学校総体として学力向上の取組を検証・改善していただくようお願いします。

<調査の概要>

- 実施期間：平成27年11月30日(金)～12月11日(金)
- 調査対象：市町村立の小学校第3学年～第6学年及び中学校第1学年・第2学年の原則として全児童生徒
小学校290校(第3学年:10,434人, 第4学年:10,319人, 第5学年:10,529人, 第6学年:10,726人)
中学校128校(第1学年:10,452人, 第2学年:10,671人)
- 学力調査：小学校 国語, 算数
中学校 国語, 社会, 数学, 理科, 英語
- 意識調査：意識調査A(児童生徒対象)※中学校第3学年:10,317人を含む
意識調査B(教師対象)※小学校:3,878人, 中学校:2,243人

1 意識調査の結果

【意識調査A(児童生徒対象)】

- 小中学校とも、勉強で分からない内容があったとき、先生や友達に聞いたり、調べたりするなど、理解できるように自分なりに努力することについて概ね8割が「よくしている、まあまあしている」と答えており、改善傾向にある。
- 小中学校とも、授業がある日の授業以外の一日当たりの学習時間については、「ほとんどしない」児童生徒が減少し、「1～2時間」の児童生徒が増加傾向にある。全体的に平日の家庭等での学習時間は増加傾向にある。
- 小中学校とも、「勉強がとても(まあまあ)好き」「よく(だいたい)理解できている」と回答した児童生徒は昨年度に比べて減少している。

※ 学校総体として、児童生徒の学習への意欲を喚起するとともに、「分かる授業」に向けた一層の改善を図る必要があります。

【意識調査B(教師対象)】

- 研究授業の実施が小中学校ともに90%程度と、授業研究を伴う校内研修の充実が図られている。
- 授業での目標提示や振り返りの実施については、さらなる徹底が必要である。
- 県学力調査や全国学力調査結果の分析による課題解決のための共通実践については、一層の充実が期待される。(小・・・86.4%, 中・・・78.0%)

※ 小中連携のもと、家庭学習課題の与え方等を含めた課題解決の共通実践を図る必要があります。

2 学力調査の結果

- 無答率は、小中学校ともに概ね減少している。
- 平成26年度調査で課題が見られた内容については、概ね改善傾向にある。一部では依然として定着率が不十分な内容もある。例は次のとおり。
 - ・小学校 4年国語(辞書の利用), 5・6年国語(接続語を使って一文を二文に書き直す)
3年算数(式と図の関連付け), 6年算数(縮図や拡大図の利用)
 - ・中学校 1年国語(辞書の利用), 1年社会(世界の様々な地域), 1年理科(凸レンズの働き)
2年社会(古代までの日本), 2年理科(質量変化), 2年英語(文脈に沿った英文を書くこと)等
- 「活用」に関する問題については、概ね改善傾向にある。一部の学年・教科において、基本的な知識・技能の定着に課題が見られる。例は次のとおり。
 - ・小学校 3～5年国語(漢字を書くこと), 3年算数(時刻や時間, 円と球), 5年算数(□, △を用いた式)
 - ・中学校 1・2年共通国語(漢字を書くこと), 1・2年共通数学(文字式), 中2数学(球の体積)等

※ 自校の学力や学習状況の課題を明確にしたうえで対策を施し、次の学力調査で改善状況を検証しましょう。

各教科の概要（小学校）

○：成果，●：課題，□：両側面 該当の小問番号を例として示しています。

【国語】

1 全体的にみた成果・課題

- 話の中心に気を付けて聞くこと(小3①)や、伝えたいことを体験と関連付けて紹介しようとする事(4年③,6年④)は概ね定着している。
- 文章の内容や筆者の考えに関心をもったり(5年⑳,6年㉑)、自分が説明したいことや推薦したいことなどを書こうとしたりすること(6年㉒)については、良好な結果が見られる。
- 主語・述語の関係を理解すること(3年㉓,4年㉔)や、接続語を使って一文を二文に書き直すこと(5年㉕,6年㉖)、学習した漢字を書くこと(3年㉗,4年㉘,5年㉙,6年㉚)など、言葉の特徴やきまりに関する内容の定着に課題がある。
- 目的に応じて文章の要点に注意しながら読み文章を要約すること(4年㉛,㉜)、また、登場人物の心情についての描写をとらえ自分の考えをまとめること(3年㉝,5年㉞)に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、概ね定着の傾向にあるが、かぎ「」の使い方(3年㉟)や、漢字辞典の調べ方(4年㊱)、ローマ字で正しく書くこと(4年㊲)、俳句について情景を思い浮かべること(6年㊳)など、言葉に関する基礎的な知識・技能の一部に課題がある。
- 活用に関する問題については、自分の考えが明確になるように文章を構成して書くこと(4年㊴,5年㊵)は概ね改善傾向が見られるが、目的に応じて文章を要約し説明すること(4年㊶㊷)や記事に見出しを付けること(6年㊸)に課題がある。
- 資料から分かったことをもとに、自分の考えを理由や根拠を明確にして書くこと(5年㊹,6年㊺)や、登場人物の人柄や気持ちについて、文章を基に想像し、自分の考えをまとめること(3年㊻,5年㊼)に課題がある。

【算数】

1 全体的にみた成果・課題

- 「数と計算」領域において、基本的な計算技能は概ね定着している。昨年度の課題であった乗法や除法の意味を理解することについては、2つの数量の関係を表した図を選ぶこと(5年㊿,6年㊽)に依然として課題がある。
- 「量と測定」領域において、昨年度の課題であった「単位量当たりの大きさ」について、一人当たりの面積をもとに全体の面積を求めること(6年㊾㊿)に改善が見られた。しかし、時刻や時間を求めること(3年㊿)、正方形や長方形の面積を求め大きさを比べること(4年㊽)には課題がある。
- 「図形」領域において、球を切った切り口の大きさを選ぶこと(3年㊿)や、ボールがすき間なく入る箱のまわりの長さを球の半径から考えることなど、図形に関する性質や概念の理解(3年㊿)に課題がある。
- 「数量関係」領域において、式と図の関連付けについては一部の学年で改善が見られた。しかし、値引きの割合を百分率で表すこと(6年㊿)や、伴って変わる二量を表に表すこと(5年㊿)には依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については概ね定着している。特に、昨年度の課題であった合同な三角形の作図に必要な辺の長さや角の大きさについて理解すること(5年㊿)について改善が見られた。
- 活用に関する問題については、式に合う図や数量の関係を正しく表した図を考えること(4年㊿)や、1km走るのにかかる時間を単位量として、速さを比べる際の判断基準を考えること(6年㊿)などについて改善が見られた。
- 知識に関する問題では、示された条件をもとに縮図をかき、実際の木の高さを求める方法を理解すること(6年㊿)について依然として課題がある。
- 活用に関する問題では、テープ図に合う具体的な場面を考えて選択すること(3年㊿)、平均を活用して具体的な場面の問題を解決すること(5年㊿)について依然として課題がある。

各教科の概要（中学校）

○：成果，●：課題，□：両側面 該当の小問番号を例として示しています。

【国語】

1 全体的にみた成果・課題

- 文章の内容を目的に応じて要約すること(1年⑱)や、資料を参考にして自分の考えを書くこと(1年⑳, 2年㉑)は概ね定着傾向にある。
- 敬語の使い方について理解すること(1年㉒)や文節の照応に気を付けて文節の関係を捉えること(2年㉓), 漢字を書くこと(1年⑨⑩⑪, 2年⑨⑩⑪)など、言葉の特徴やきまりに関する事項に依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、小説の内容を理解する際に登場人物の行動や場面の展開に注意して読むこと(1年⑯, 2年⑰)や、辞書を活用して語句の意味を適切に書くこと(2年⑭)に課題がある。
- 活用に関する問題については、概ね定着傾向にあるが、相手の反応を踏まえて話す内容を考えること(1年③)や、文章を読み要旨を捉えること(1年⑳, 2年㉑)に課題がある。

【社会】

1 全体的にみた成果・課題

- グラフなどの資料から必要な情報を取り出して、地域的な特色(気候等)を明らかにすること(1年⑦, 2年⑧)など、特に地理的分野での読み取りの技能が定着傾向にある。
- 地理的分野・歴史的分野の基本的事項が十分に定着していないことから、事象の背景や関係性等について考え、適切に表現すること(1年⑬, 2年⑤)に依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、単元・領域によって定着に差があるが、「インダス川」などの自然の名称については記憶していても、地図上の位置は指摘できない(1年⑪, 2年⑬)という課題がある。
- 活用に関する問題については、「江戸時代の三大改革」等の歴史的事象の影響や関係性を年表や資料をもとに考え、適切に表現すること(2年⑲⑳)に課題がある。

【数学】

1 全体的にみた成果・課題

- 「数と式」領域において、昨年度の課題であった事象の中の数量の関係から、課題解決のために方程式に表すことや方程式が表している数量の意味を考えること(2年⑫⑬)について、改善が見られた。
- 「図形」領域において球の体積と円柱の体積の関係を考えること(2年⑩), 「関数」の領域において具体的な事象の中にある比例関係を理解することや表から比例の関係を見いだし式に表現すること(1年⑨⑩)に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、簡単な一次式の計算や連立方程式(2年⑫), グラフの傾きの意味(2年⑰)など、基本的な概念の理解について、昨年度の課題の改善が見られた。
- 活用に関する問題については、文字を用いた式で数量関係を表して説明すること(1年⑪, 2年⑪)や、比例式による答えの求め方を説明すること(1年⑭)など、数や言葉で適切に記述することに依然として課題がある。

【理科】

1 全体的にみた成果・課題

- 1分野, 2分野ともにグラフや表を読み取り、規則性や特徴などを見いだすこと(1年⑪, 2年⑪⑫)については改善傾向にあるが、グラフや表の数値を基に、圧力や地震の揺れの速さを求めること(1年③, 2年⑫⑬)に課題がある。
- スケッチ(1年⑯)やろ過の方法(1年④), ルーペの使い方(1年⑮), 野外観察の留意点(1年⑳)など基本的な観察、実験の技能については、概ね定着傾向にある。
- 地学領域において、地震の揺れと波の名称を理解すること(2年㉑), 化学領域において、還元について名称を理解すること(2年⑥), 実験結果から還元によって取り出される物質を見いだすこと(2年⑦)に課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、化学変化を化学反応式で表すこと(2年⑨)に課題がある。
- 活用に関する問題については、光の実験結果から実像や虚像が見える条件を見だし、凸レンズの焦点距離との関係を説明すること(1年⑩⑬)に課題がある。

【英語】

1 全体的にみた成果・課題

- 「聞くこと」において、自然な口調で話される英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること(1年④, 2年③)は概ね定着している。
- 「読むこと」において、英文のあらすじや大切な部分などを正確に読み取ること(1年⑳, 2年⑮)については、昨年度に比べて改善がみられるものの、依然として課題がある。
- 「書くこと」において、自分の考えや気持ちなどが相手に正しく伝わるように文と文のつながりに注意して書くこと(1年⑩, 2年㉑)については、昨年度に比べて改善が見られるものの、依然として課題がある。

2 知識・活用に関する問題

- 知識に関する問題については、基本的な単語(1年⑯, 2年⑲)や文法事項(1年⑮, 2年⑫)の定着に課題がある。
- 活用に関する問題については、話の内容や書き手の意見を踏まえて自分の意見や考えをまとめ、既習事項(語彙・文構造等)を活用して表現すること(1年㉑, 2年㉑)に、依然として課題がある。

高森町
小中学校

「たかもり学習」

	流れ	気をつけること
5分	た たしかにつかむ	学習課題を確実につかませる。
10分	か かんがえる	一人一人に自分なりの考えをもたせる。
20分	も もっと深める	協働的な学び合いを通して、考えを練り上げる。
10分	り りかいしたことを広げる	本時で学習したことを確かめる。

【学習の基盤づくり】

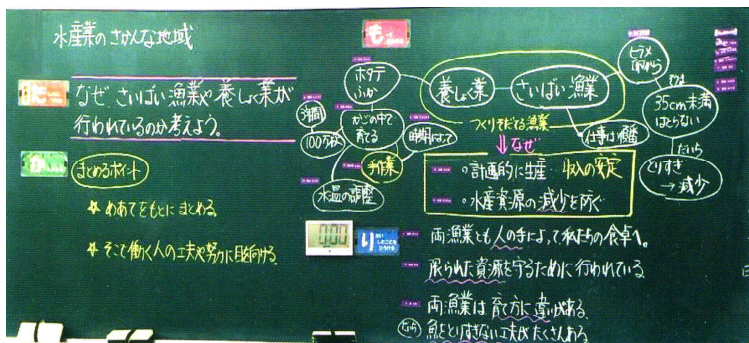
- 課題把握と個人思考の充実
 - ・課題提示の工夫
 - ・個人思考への支援
- 協働的な学びの推進
 - ・意見の共有と思考の深化
 - ・知識の定着、技能の習熟
- 小中・地域連携の強化
 - ・小中一貫教育の推進
 - ・遠隔学習の積極的展開
 - ・授業と家庭学習の連動

課題解決学習のモデル化「たかもり学習」

高森町小中学校では、小中一貫教育の推進のもと、課題解決学習のモデル化を図り、共通実践が図られています。

＜たかもり学習＞

- 単位時間における学習過程の構造化
- 黒板に「た・か・も・り」の札を掲示し、「導入・展開前段・展開後段・終末」の流れを明確化
- デジタルタイマーによる活動時間の意識付け
- 授業チェックリストの開発・活用
- 教師と児童生徒の日常的な授業の振り返り



大津町立
大津小学校



【学習の基盤づくり】

- 実生活からの課題の提示
 - ・数理的な処理で解決するリアリティのある素材
- 課題解決的な学習過程の設定
 - ・つかむ
 - ・やってみる
 - ・ひろげる
 - ・まとめる
- 基礎学力の向上及び学習環境の充実
 - ・「さんさんタイム」、「ぐんぐんタイム」及び家庭学習の充実
 - ・生活数理の授業を振り返る「生活数理コーナー」

「生活数理」で思考力・判断力・表現力の育成

「生活数理」では、「算数」で習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し、実生活(日常の事象)の様々な場面で生かすことのできる思考力・判断力・表現力の育成を目指します。

＜生活数理で身に付けさせたい力＞

- ① 課題を見付け、見通しを持つ力
- ② 情報を選択、分析する力
- ③ 主張する力
- ④ 意思決定する力

＜生活数理の特徴＞

- ① 学習課題を**実生活の中から**取り上げる。
- ② 学習過程で「**算数で学んだこと**」、「**数学的な生活経験**」を生かす。
- ③ 「**思考・判断・表現**」する**学習活動**を重視する。

※ 「生活数理」は、算数と異なり、実生活上の課題を扱い、答えが一つとは限りません。また、総合的な学習の時間とは異なり、数理的な内容を中心に扱います。

★ 大津町立大津小学校では、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、平成26年度から4か年計画で新教科「生活数理」の研究開発に取り組んでおり、本年度は、すべての学年で新教材を開発し、10～35時間の授業実践が行われました。

長洲町立
六栄小学校

学習過程を意識したノートを活用

六栄小学校では、算数的な思考力と表現力の育成を目指した学習の基盤づくりの一つとして、学習過程を意識したノートの活用について共通実践が図られています。学習用具としてのノートの機能を見直し、互いの考えをノートを媒体として伝え合うことを通して、思考を深める研究に取り組んでいます。

<学習過程を意識したノートの活用>

導入	つかむ・見通す	・・・学習のめあての把握
展開	調べる	・・・算数的表現で解法を考える
	伝え合う／学び合う	・・・ペアトーク→(グループ討議) →全体での学び合いを行う
	ためす	・・・類似問題をよりよいと思う方法で解かせる
整理	ふりかえる	・・・考えの深まり等をまとめる



【学習の基盤づくり】

- 低・中・高学年による学習過程を意識したノートモデルの共有化
- 学習規律の徹底
 - ・発表のしかた
 - ・学習の態度づくり
- 計算力の向上を目指す共通実践
- UDの視点に基づいた学習環境の整備

★ 長洲町立六栄小学校では、平成26・27年度熊本県教育委員会指定「生きる力」を育む研究指定校(学力充実研究推進校)として、「わかる喜びを感じる算数科授業の創造」という研究テーマのもと、算数的表現力の育成に取り組み、伝え合う、学び合う算数的活動の研究がなされています。

御船町立
小坂小学校

授業公開・互いの学び合いで授業力向上

小坂小学校では、「見せ合っ授業」として、毎月の公開授業を通して授業力の向上に取り組んでいます。

また、ワークショップ型から模擬授業スタイル、ときには報告会や討論会など、全職員が主体的に授業を改善し指導力の向上に努める校内研修を実施しています。

授業設計カードの活用

指導案を簡素化し、授業展開のポイントを構造化した授業設計カードを活用することにより、毎月の公開授業が可能になります。

毎月の公開授業と検証

授業設計カードを活用した毎月の授業と検証で、若手・ベテランが授業について等しく磨き合います。

★ 小坂小学校は、平成26・27年度に本県の「学校改革プロジェクト支援事業」モデル校として研究テーマ「どの子どもも楽しく『分かる・できる』授業のユニバーサルデザインの追究」のもと、教育実践に取り組んでいます。

- 小坂型授業**
- 黙想と「お願いします!」心のスイッチを入れる
- ゲーム・クイズでアイスブレイク
- メニュー・ボードを提示
- 目当て・学習テーマの提示
- 指示・説明・発問の原則
- 8点発表法の徹底
- 場の構造化・展開の工夫
- 個別の配慮を忘れない
- 焦点化をアクションで明確に
- 早めの共有化、しゅくり定着活動
- 終了時間少し前に終わる
- チャイムと同時に「ありがとうございました!」

授業設計カード

【学習の基盤づくり】

- 授業のユニバーサルデザイン
 - クラス内の理解促進
 - ルール of 明確化
 - 等
- 一人一人が学習内容を理解するための取組
 - 焦点化
 - スモールステップ化
 - 視覚化
 - 共有化(ペア→グループ→オールトーク)

学力向上の検証改善サイクルの確立に向けて **学校全体用チェックリスト** (サンプル)
 ~学校全体の課題の改善に向けて、改善方策を共通理解し、共通実践につなげましょう~

		取組の内容	確認	
P	●	前年度の県学力調査結果等を基にした自校の課題改善プランを全職員に配付し、重点課題や共通実践事項について、日常的に確認ができる環境を整えている。		
	4月	●	校内研修や教科部会等で自校の重点課題、共通実践事項を設定している。	
	5月	○	自校の学力・学習の状況等や学校の方針について、保護者等へ説明を行っている。	
D	●	自校の課題改善プランについて、全職員で共通理解し、共通実践に取り組んでいる。		
	●	「肥後っ子輝きナビ」を活用するなど、全国学力・学習状況調査の自校の結果分析を基に、課題改善プランの修正・重点化を行い、全職員で共通理解・共通実践に取り組んでいる。		
	5月	●	全国学力・学習状況調査の結果分析を基に、自校の学力・学習状況について、保護者等へ説明している。	
	2月	●	家庭学習・宿題の方針について共通理解し、共通実践している。	
C	●	本年度の県学力調査の分析により明らかになった成果や課題の改善方策について、学校全体で共通理解している。		
	1月	●	年度当初に作成した課題改善プランや全国学力・学習状況調査で明らかになった課題について、その達成状況を検証している。	
A	●	本年度の県学力調査の分析により共通理解した課題の改善に向けて、全職員で共通実践している。		
	1月	●	課題克服プリントや国や県の学力調査過去問題等による補充指導を行っている。	
	3月	●	次年度の学習に向けて、学年末休業日・学年始休業日に、適切な課題を示している。	

通年で取り組む内容	●	県学力調査過去問題や全国学力・学習状況調査過去問題（単元別・領域別）等を学校全体の共通理解のもと、日常的に授業や補充指導で活用している。	
	●	管理職が日々の授業を見回ったり、教師が互いに授業を見せ合ったりするなど、積極的な授業公開が行われている。	
	○	校内研修による授業研究を1人1回以上、実施している。	
	○	必要に応じて、地域住民や保護者と連携した学習支援活動を行っている。	

●重点的に取り組んでいただきたい内容 ○今後、取組が期待される内容

授業改善に向けて **教諭・講師用チェックリスト** (サンプル)
 ～学校全体の課題改善プランを踏まえ、授業改善につなげましょう～

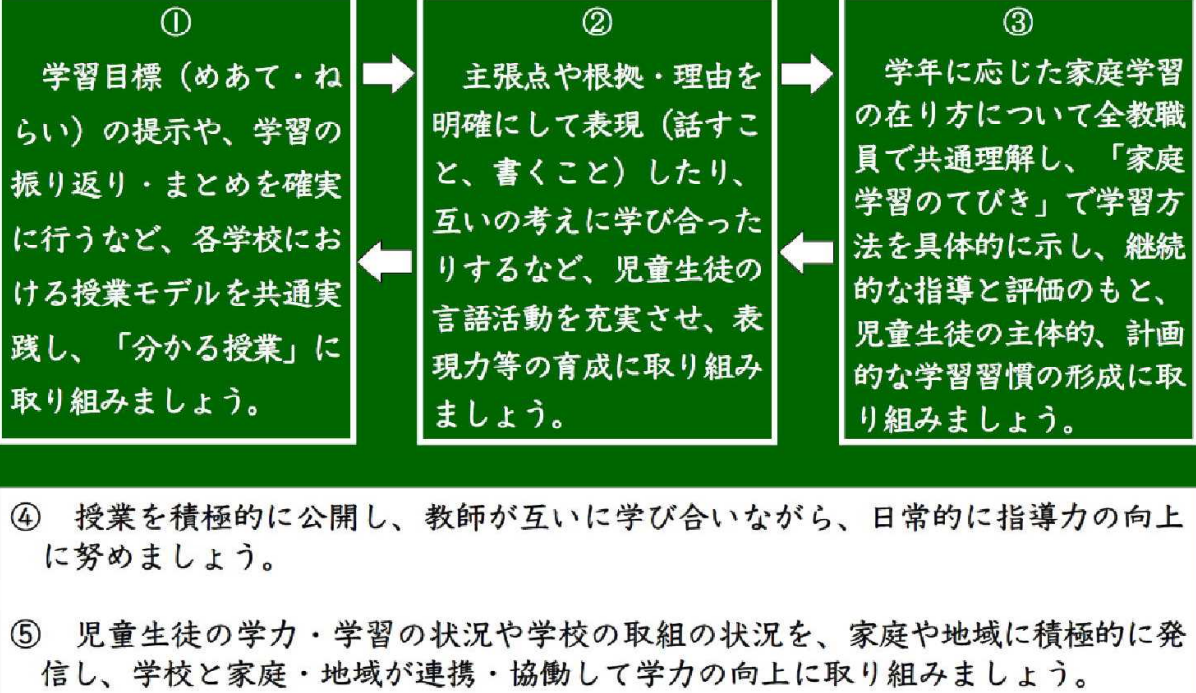
	取組の内容	確認
課題意識	県学力調査や全国学力・学習状況調査等で明らかになった児童生徒の課題について理解している。	
	学校の学力向上の共通実践事項について、常に意識して取り組んでいる。	
	全国学力・学習状況調査や県学力調査で出題された内容について把握している。 (教科書に付箋を貼るなど)	
日々の授業	教材研究のもと、学習のねらいや授業展開、評価基準等を明確にして、熊本型授業に取り組んでいる。	
	授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示している。	
	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や教材の工夫等を行っている。	
	授業において、自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に表現する(文章に書く、図や表に表すなど)学習を位置付けている。	
	主張点や根拠・理由を明確にして表現したり、互いの考えに学び合ったりするなどの言語活動を位置付けている。	
	授業の最後に、学習したことを振り返る活動や学習のまとめを位置付けている。	
	1時間の学習内容について適用問題を位置付けるなど、学習の定着を図る時間を適切に位置付けている。	
	1時間の学習の流れが分かるような板書や学習環境の工夫に取り組んでいる。	
補充指導・日常指導	評価活動を適切に位置付け、補充指導や発展的指導等、個に応じた指導に取り組んでいる。	
	全国学力・学習状況調査や県学力調査(ゆうチャレンジ)の過去問題、全国学力・学習状況調査過去問題(単元別・領域別)を授業や補充指導に活用している。 (国語、算数・数学)	
	家庭学習のてびき等を基に、家庭学習の方法について具体的に指導し、適切な評価と指導を行っている。	
	学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底している。	

各チェックリストは、県教育委員会のHPに掲載しています。各学校の状況に応じて修正し、活用してください。

学力向上に向けた検証改善サイクルの確立を目指して

学力向上対策検討委員会からの提言

～学校全体の学力の傾向や課題について全教職員で共通理解し、
学校全体として組織的に取り組みましょう～



学力向上対策検討委員会：学校関係者はもとより、有識者等から広く意見を聴取し、今後の学力向上対策について検討するため、県教育委員会が設置した委員会（熊本大学 河野順子教授 他 14名の委員で構成）

各学校においては、学力向上対策検討委員会の提言を踏まえ、国や県の学力調査の問題や調査結果等の活用による学力向上に向けた検証改善サイクルを確立するとともに、校内研修を通して学校総体とした授業改善の取組の充実を図っていただくようお願いします。

※ 「平成27年度熊本県学力調査結果報告」は、熊本県教育委員会ホームページ(<http://kyouiku.higo.ed.jp/>)から、【義務教育→学力向上→熊本県学力調査→平成27年度熊本県学力調査】を参照してください。

<お問い合わせ先>

熊本県教育庁教育指導局義務教育課義務教育指導係
〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18-1 TEL:096-333-2688